国際会計論 Exercise

Chapter 11: 無形資産の会計

- * 解答はすべて解答用紙に記述してください。
- 問1 無形資産の当初認識について、300文字程度で説明しなさい。
- 問2 無形資産の事後測定について、150文字程度で説明しなさい。
- 問3 X社は、下記の【資料】のように無形資産を帳簿価額から公正価値に再評価した。比例修正 再表示アプローチと相殺消去アプローチによる再評価方法で、解答欄の(a)~(j)欄を完成さ せなさい。

【資料】

	再評価前	再評価額
単位	千円	千円
帳簿価額の総額	450	
償却累計額	-270	
正味帳簿価額	180	225

問4 下記の【資料】に基づいて、特許権の償却に関して、耐用年数および残存価額を計算して、 各年について仕訳しなさい。割引率は2%とする。会計期間は1年、決算日は12月31日と する。

【資料 1】

X 社は、 $\times 1$ 年 1 月 1 日に、10 年を存続期間としている特許権で保護されている製品 P を 7,000,000 円(公正価値)で取得した。したがって、製品 P は、最低でも 10 年間にわたり正味 キャッシュ・インフローを生じさせると予測されている。一方、X 社は、製品 P を 5 年後に取 得原価の 50%で、第三者へ売却する確約を得ており、X 社は 5 年後に売却する意向である。

【資料 2】

基礎資料

取得時公正価値 7,000,000 円 売却予定時期 X5年12月31日 5 年後

売却予定価額

公正価値の 50% 3,500,000 円 割引率 2% 割引率の計算

年数	割引率
1	1.02
2	1.0404
3	1.0612
4	1.0824
5	1.1041

国際会計論 Exercise 解答用紙

Chapter 11	ID Number	Name	Grade
無形資産の会計			

問 1			
問 2			

問 3

(単位:千円)

	再評価前		再評価後			
			比例	修正再表示アプロ	相彩	対治去アプローチ
帳簿価額	(a)		(d)		(h)	
償却累計額	(b)		(e)			
正味帳簿価額	(c)		(f)		(i)	
再評価前から再評			(g)			
価後への変化割合						

問 4

残存価額					
		売却予定価額の現在価値		円	
		耐用年数		年	

各年	手の償却額		
	(取得原価-残存価額) ÷耐用年数	円	

売却	即価額と残存価額	(現在価値)	との差額	
				円

残存価額の変化

(単位:円)

時期	年	月日	割引率	残存価額の現在価値	増加額
取得時	X1 年	1/1	1.1041		
1年後	X1 年	12/31	1.0824		
2 年後	X1 年	12/31	1.0612		
3年後	X1 年	12/31	1.0404		
4年後	X1 年	12/31	1.02		
5 年後	X1 年	12/31	1		
計					

仕訳

(単位:円)

Year	M/D	Debit	amount	Credit	amount	特許権の減
						価 (純額)
X1	12/31					
X2	12/31					
Х3	12/31					

Copyright ${\rm @\ ICHIRO\ MUKAI\ All\ Rights\ Reserved}.$

X4	12/31			
X5	12/31			